

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大阪市立大桐中学校**

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) **157**

平均得点 (点)

	国語	数学	英語
学校	59.4	47.3	67.0
大阪市	61.8	52.6	66.9
大阪府	63.2	53.7	69.3

平均無解答率 (%)

	国語	数学	英語
学校	4.8	5.8	4.4
大阪市	5.8	6.0	5.1
大阪府	5.4	5.9	4.9

結果の概要

3科とも得点において大阪府・市の平均を下回っているが、無回答率については、3科とも大阪府・市の平均より良い結果となっている。入学してから普段の授業や提出物など真面目に取り組むことができおり、一生懸命取り組む姿勢が無回答率にも表れているのではないかと考える。英語においては、得点についてほぼ大阪市平均であり、ここから中学校に入学してからの学習姿勢を評価することができる。一方、数学においては、得点において大阪市平均より5.5ポイント低くなっており、今後の課題と言える。

成果と今後取り組むべき課題

中学校に入学してから、家庭学習の取り組みの定着化をはかるため、家庭学習ノートの取り組みを全学級で行い、また英語、数学、社会などで課題の未提出者に対して、放課後の居残り学習の日を設定するなどしてきた。その結果、少しずつ学習に対する意識をもってきている生徒も増加している。一方、数学をはじめ、授業の内容がなかなか理解できず、解決できていない生徒もいるのが現状である。今後、個別に指導するなどていねいな学習指導を行っていきたい。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) **136**

平均得点 (点)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	56.1	41.4	40.2	37.1	39.8
大阪市	61.3	47.3	47.0	43.8	52.5
大阪府	62.9	48.5	49.4	45.4	55.0

平均無解答率 (%)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	9.6	10.7	12.4	6.4	5.9
大阪市	6.2	7.0	8.3	5.3	4.0
大阪府	5.3	6.3	7.5	4.7	3.8

結果の概要

5科とも得点において大阪府・市の平均を下回っており、無回答率についても、5科とも大阪府・市の平均より悪い結果となっている。国語においては、毎週の漢字プリント課題を行い、英語や数学においては、希望者による定期的な学習会を行い、学年として長期休業中は、質問日を設けるなど基礎学力の定着をはかっている。また、理科においては、映像教材や実験などを多く取り入れ興味関心を高めているが結果として、まだまだ成果として表れていない。

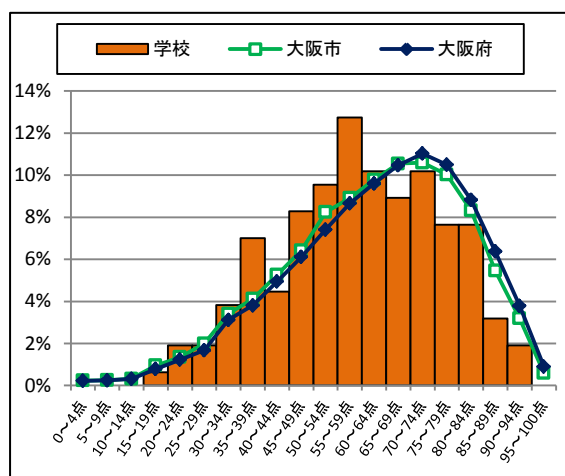
成果と今後取り組むべき課題

3年生になり、今まで以上に授業において集中して取り組めており、学習に対する意欲がひじょうに強くなっている。そのことは提出物にも表れており、今までなかなか課題の提出ができていなかった生徒もきちんと出すことができている。今後は、基礎基本の定着をはかるため、定期的な質問日を設けるなど生徒の「わからない」にしっかり答えていける体制をつくっていききたい。

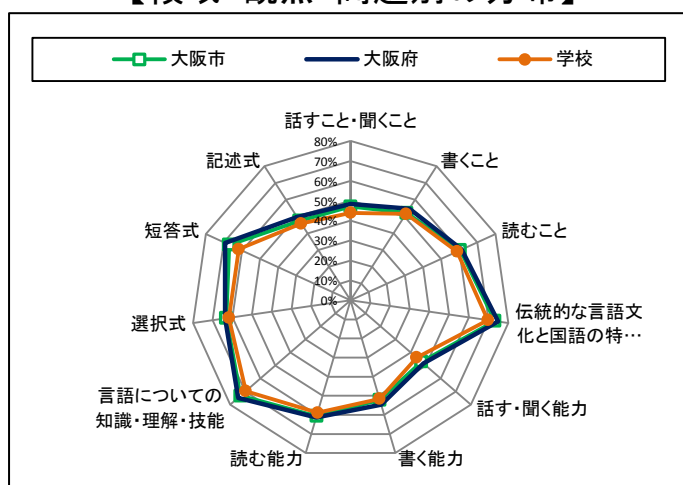
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

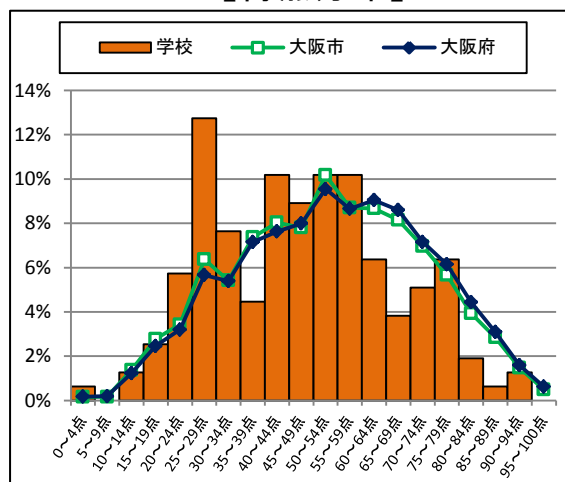


【領域・観点・問題別の分布】

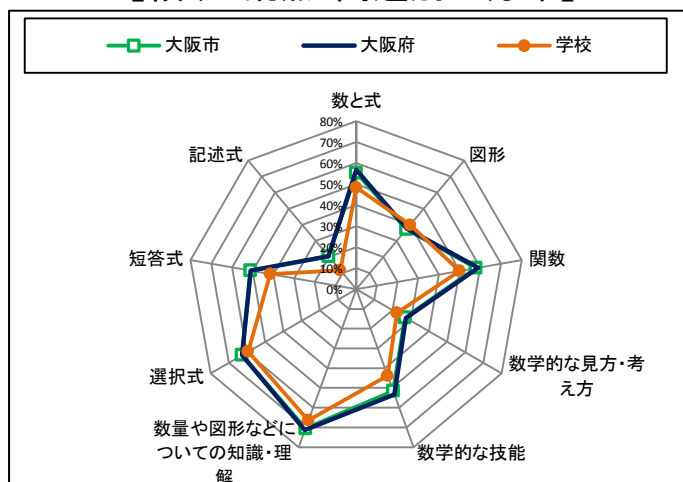


【数学】

【得点分布】

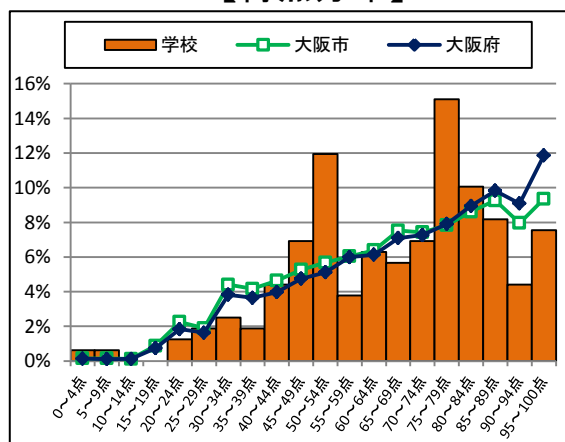


【領域・観点・問題別の分布】

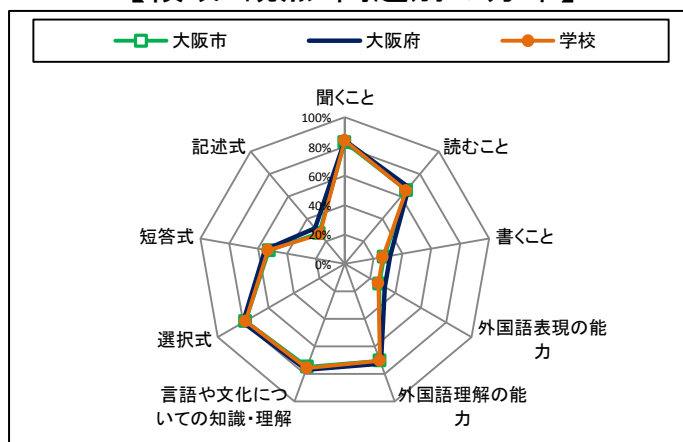


【英語】

【得点分布】



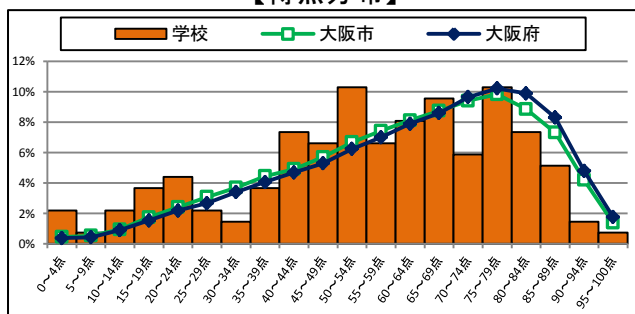
【領域・観点・問題別の分布】



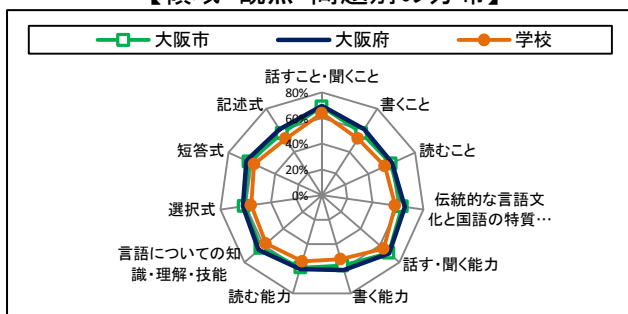
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

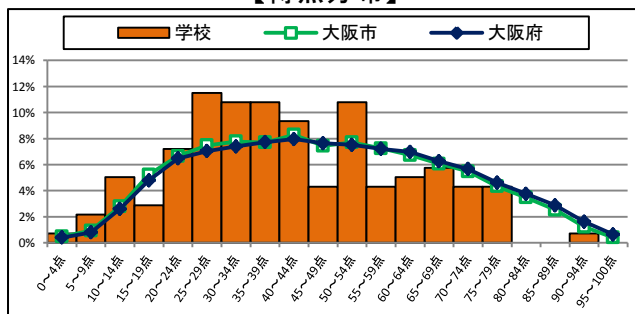


【領域・観点・問題別の分布】

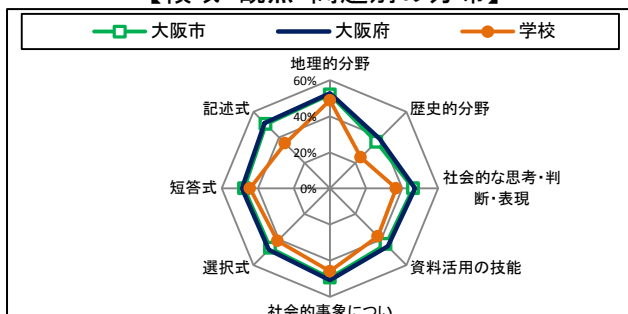


【社会A】

【得点分布】

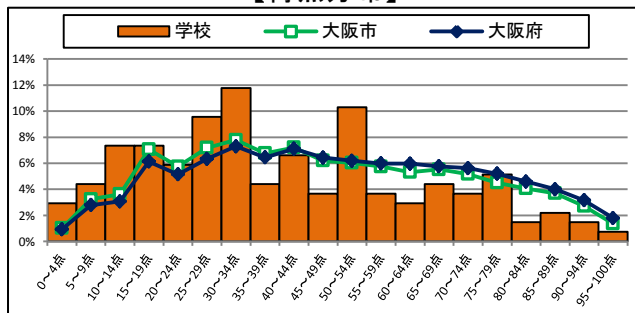


【領域・観点・問題別の分布】

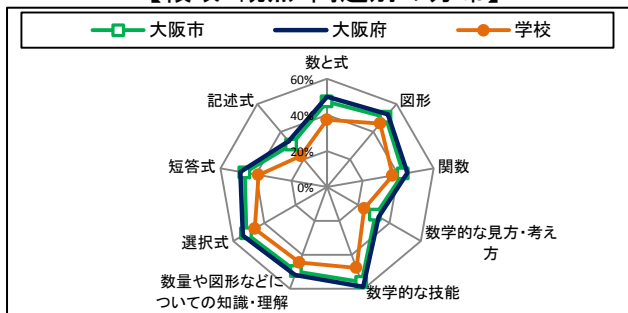


【数学】

【得点分布】

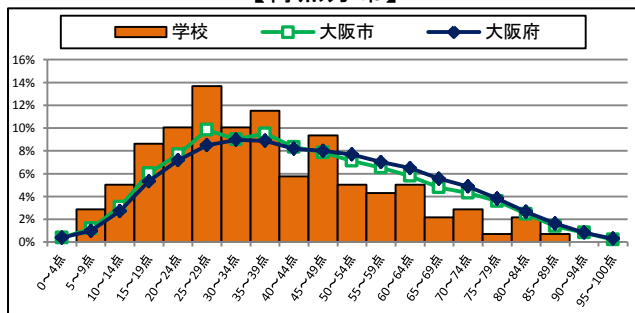


【領域・観点・問題別の分布】

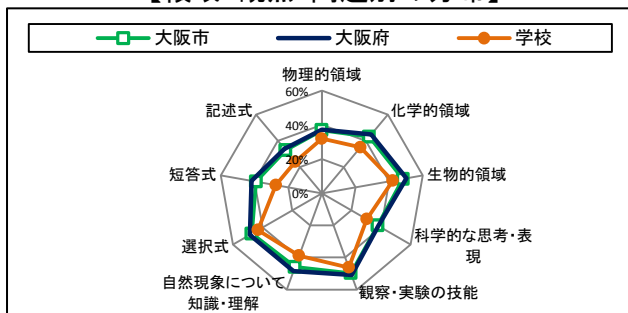


【理科A】

【得点分布】

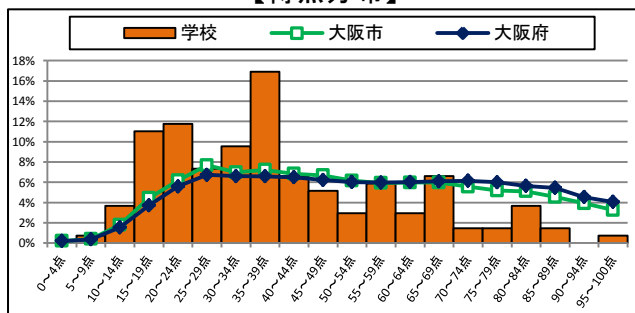


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

